

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」所沢校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達 の状況について共通理解ができています。	・毎支援後、保護者の方へフィードバックを行い、その日の支 援内容や子どもの状況等について丁寧に説明している。併せ て、家庭や園生活の様子についてもお話をお聞きし、「きら り」以外の場での子どもの様子について共通理解をもてるよ うにしている。	・毎支援後の丁寧なフィードバックを継続する。 ・保護者の方に支援見学の機会を提案することで、さらに細 やかに子どもの状況について共有理解をもてるようにする。
2	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負 担等について丁寧な説明がありましたか。	・契約時に、運営規定や個別支援計画、利用者負担について説 明している。保護者からの質問があれば、その都回答してい る。 ・運営規定、契約書、重要事項説明書等は保護者の待合スペ ースにファイリングし、いつでも閲覧できるようにしている。	・契約時の丁寧な説明や質問への回答を継続する。
3	こどもは安心感をもって通所していますか。こどもは通所を 楽しみにしていますか。	・それぞれの子どもが興味をもち、意欲的に取り組めるような 活動内容となるよう、プログラムを工夫している。 ・子どもの意見を尊重しながら関わり、出来たことがあれば褒 めると共に保護者とも共有をしている。	・安心感、楽しみをもって通所できるよう、引き続き支援内 容の創意工夫や充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士・きょうだい同士の交流の機会がなく、保護者や きょうだいに向けての支援が不十分なこと。	・現状、保護者会やきょうだい向けのイベントを実施してい ない。	・利用者からの要望があった場合、実施を検討する。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他 のこどもと活動する機会がないこと。	・現状、園や地域の中で活動する機会を提供していない。	・要望があった場合、行政や関係者とも相談しながら実施を 検討する。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング 等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が不十分 なこと。	・「きらり」主催での家族支援プログラムを実施していない。 ・外部の研修については、チラシを保護者の待合スペースに置 いて周知しているが、個別でのご案内等は行っていない。	・要望があれば「きらり」主催の家族支援プログラムの実施 を検討する。 ・外部研修のチラシについては、フィードバックを利用して 個別にご案内を差し上げる。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」所沢校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 30名

回収数 27名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	4	1	0	・仕方がないが、もう少し広いと良い。 ・利用児によってはスペースが限られている。 ・必要十分な広さだと思う ・限られたスペースの中で工夫されているが、運動面ではもう少しスペースがあると良いと思う	・利用児の発達段階や支援内容に応じて、出来る限りゆとりをもったスペースで支援が行えるよう、工夫や配慮を重ねていく
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	25	1	1	0	・活動スペース的にも十分な人数だと思う ・FB時も別の職員が子どもにつくなど、手厚いと思う	・今後も適切な人員配置のもとでの支援が継続できるようにする
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	4	0	2	・特記なし	・利用者の特性に合わせて、支援スペースの使用箇所やパーティションの利用を工夫し、できるかぎり配慮しながら対応する
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	2	1	0	・親の姿が見えると甘えてしまうため、別室でモニタリングできるスペースがあると嬉しい。 ・トイレに幼児用便座が設置され、配慮がされているが、狭いため介助しづらい。 ・危険のないようすっきりした空間だと思う	・保護者の待合スペースについては、利用児の支援に支障がでない位置取りができるか検討する
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	2	0	1	・子どものペースに合わせて根気よく接してくれている一方、活動内容に偏りを感じる指導員もおり、もう少し規律を守らせても良いのではないかと感じる面もある。 ・子どもの性格や伸ばしたいかなどを意識して支援してくれている	・支援における約束事は、利用児にも分かりやすい形で提示できるよう検討する
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25	0	0	2	・特記なし	・現在作成中
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26	0	0	1	・しっかり聞き取りをしてくれた ・親が勉強になったと思うくらい	・日々の支援やモニタリングの際、ニーズを丁寧にヒアリングした上で個別支援計画を作成している
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	0	0	1	・特記なし	・各項目、基準を満たす形で作成している。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	0	0	2	・最新の計画に沿って進められていると思う ・利用回数が浅く、よく分からない	個別支援計画の内容を確認した上で支援に臨むようにしている
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1	0	1	・毎回、様々な活動をしている ・色々な活動を取り入れて、支援を通して経験も増えているのがありがたい	・個別支援計画をもとに、利用児の現状にあった様々な活動が提供できるよう、工夫を重ねていく
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	8	4	4	10	・あまり参加できていない。 ・集団療育も楽しみにしている	・要望があれば機会提供を検討する
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	0	0	0	・しっかり時間をとって説明があった ・とても分かりやすかった	・契約時に説明している
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	1	0	0	・しっかり時間をとって説明があった ・とても分かりやすかった	・作成時に毎回説明の上、保護者の同意をいただいている
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	3	0	7	・特記なし	・各種研修等の案内については、保護者の待合スペースで閲覧できるようにしている
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	27	0	0	0	・支援活動ごとに話すタイミングがある ・積極的に「どうですか？」と聞いてくださり、話しやすい	・毎支援後に保護者へFBを行い、家庭や園での様子についても情報共有を行うようにしている
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	1	0	1	・支援中に保護者の相談につけてくれることがある。 ・毎支援活動後に普段の生活についてもヒアリングしてくれる	・支援後のFBやモニタリング面談、家族支援等を通じて行っている
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	1	0	1	・一緒に成長を見守ってくれるのは心強い ・親身になって支援してもらっている ・まず褒めてくれるのがとても嬉しい	・利用児の成長を保護者と共に喜び合いながら

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6	6	3	12	・あまり参加できていない。 ・利用日数が浅く、よく分からない	・要望があれば、実施を検討する
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	1	0	2	・個別で相談はしていないので分からない ・相談しやすい雰囲気づくりがされている	・契約時に説明をしている。その他、支援後のFB時に案内をし、要望があれば迅速に対応するようにしている
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	0	0	0	・LINEで連絡ができるので便利。 ・毎回のFBが丁寧で、支援内容の説明も分かりやすい	・電話やLINEなど、状況に合わせた複数の連絡手段を用意している
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	0	0	2	・LINEで集団活動の案内等がされている ・インスタグラムは身近に感じられて良い ・LINEがあつてすごいと思った	・ブログやインスタグラムで活動に内容を発信している
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23	1	0	0	・特記なし	・法令に則り、十分に注意しながら取り扱っている
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2	0	3	・訓練に参加したことがない。説明を受	・契約時に説明している。各種訓練は規定回数を守って実施している
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	3	0	3	・訓練に参加したことがない。 ・訓練を見たことはないが、定期的に避難訓練予定の掲示がある ・LINEで過去の案内を見て、すごいと思った	・月1回実施している
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	1	0	2	・特記なし	・契約時に説明している。支援中も、安全に留意しながら関わっている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	0	7	・そのような状況になったことがないから分からない。 ・きちんと対応されると思う。 ・利用日数が浅く、まだ分からない	・契約時に説明している
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25	0	0	0	・毎回とても楽しみにしている。指導員との信頼関係も築けていると思う。	・利用児が安心して通所できるよう、環境構成や支援内容に配慮しながら支援を提供していく
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	25	0	0	0	・「きらりに行きたい！」と楽しく通わせてもらっている ・とても楽しみにしている ・風邪を引いて行けないと言うと「嫌だ」と言っている ・子どもの様子から、毎回楽しみにしている	・利用児が楽しみながら活動できるよう、支援内容や提供方法を工夫しながら関わっていく
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	0	0	2	・満足している ・とても満足している	・利用児だけでなく、保護者の方にも満足していただけるような支援が今後も提供できるよう、工夫や配慮を重ねていく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」所沢校				公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用児の発達段階に応じてスペースをパーティションで区切ったり利用人数を調整したりしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		事前に計画を立て、利用者一人に対して指導員が一名つける体制を整えている。	・今後も適切な人員配置のもとで支援が行えるようにする。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		利用児ごとにスペースをパーティションで区切る・幼児用補助便座を用意する・児童が入らないスペースをライン引する等、分かりやすくなるよう工夫している。	・視覚的に必要な情報を伝えられるような工夫を増やし、より構造化された空間にしたい。 ・パーティションやホワイトボードの足など、児童がつまずく恐れのある箇所がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定期的に清掃を行っている。	・定期的な清掃を継続する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		状況に応じて出来る限り配慮している。	・より個室に近い空間で、クールダウンしやすいスペースが確保できると良い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的なミーティングを通じて、業務改善に努めている。	・定期的なミーティングを継続することで、継続して業務改善を図る。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に一度、必ず実施している。	・定期的な実施を継続する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的なミーティングや管理者との定期面談等の機会を設けている。	・定期的なミーティングを継続することで、継続して業務改善を図る。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状実施していない。	・会社の判断を仰ぎながら、必要に応じて実施する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内で様々な研修が実施されている。外部研修についても案内をしている。	・今後も法人内外での研修に参加できるよう、業務調整を行う。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		現在本社で準備している段階。	・準備が整い次第、公表予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントシートや保護者とのモニタリング面談等を通じて、適切なプロセスを踏んで作成している。	・適切なプロセスを踏んだ上での作成を継続する。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		原案作成会議を通じて、全職員が個別支援計画作成に携わっている。	・全職員が個別支援計画作成に携わる体制づくりを継続して整えていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員がすぐに閲覧できる場所に個別支援計画をファイリングしている。	・計画に沿ったより良い支援提供に向け、適宜振り返りを行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		社内で等いるされたアセスメントシートを用いている。その他、支援記録や保護者からの聞き取り等、様々な手段で情報把握に努めている。	・定期的なアセスメントを継続して実施する。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要項目が適切に設定されている。	・適切な項目を盛り込んだ個別支援計画作成を継続する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		定期的なミーティングで、支援方針や使用教材を職員全体で検討している。集団療育については、複数人の担当でプログラムを立案している。	・ミーティングを活用し、教室全体での支援プログラム立案の体制を継続する。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	支援記録を参考にしながら、児童の興味関心に沿ったプログラムを提案している。	・児童の興味関心に沿った支援を提供できるよう、工夫を重ねていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別療育を基本としつつ、月2回程度の頻度で小集団療育も実施している。	・小集団療育を継続して取り入れることで、今後も個別活動と集団活動とのバランスがとれるようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	原則、毎日朝礼を行い、利用予定者と役割分担、連絡事項等を確認している。	・朝礼や社内の連絡ツールを活用し、業務分担や情報共有を徹底する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	必要に応じて実施している。	・必要に応じて、支援終了後や空きコマを利用した打ち合わせの機会を設ける。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援記録を作成し、それを活かして支援の改善に努めている。特記事項は定期的なミーティングでも共有している。	・確実な記録入力を継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	時期に応じてモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを行っている。	・定期的なモニタリングを今後も徹底して行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児発管を中心に、適宜必要な人選を行いながら会議に参画している。	・機会があった場合、適切な人選のもとでの会議参画を継続する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	利用者からの要望があれば、保育・教育機関と連携している。併用事業所には児童発達支援計画を共有している。	・保護者からの要望があった場合、即座に対応できる体制づくりを行う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	利用者から要望があれば、電話や園訪問等で情報共有を行っている。	・保護者からの要望があった場合、即座に対応できる体制づくりを行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	前例なし。	利用者からの要望があれば対応する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	地域の研修への参加募集などは共有されているが、機会はあまりない。	・今後、機会を設けられるよう検討する。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	現状での機会提供なし	・要望があれば検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎支援後、保護者へのフィードバックを行っている。	・毎支援後のフィードバックを継続する。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・事業所としては実施していない。 ・外部の研修会のお知らせ等は閲覧できるようにしている。	・要望があれば、事業所として家族支援プログラムを実施を検討する。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・契約時に説明している。運営規定については保護者がいつでも閲覧できるようにしている。	・契約時の丁寧な説明と閲覧用ファイルの展示を継続する。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	支援終了後のフィードバックやモニタリング面談を通じて、ニーズを適切にヒアリングしている。	・子どもや保護者の意思を尊重した計画作成ができるよう、適切なニーズ把握に努める。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	更新時には保護者に説明し、同意をいただくと共に、疑問点があれば具体例を挙げて説明している。日ごろのフィードバックでも丁寧に説明している。	・計画更新時や毎支援後のフィードバックにおける丁寧な説明を継続する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	支援後のフィードバックや家族支援を活用し、相談の機会をもっている。	・支援後のフィードバックだけでなく、家族支援等を活用して家族の悩み等に対応できる体制を整える。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	現状実施していない。	・利用者からの要望があれば検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	日ごろのフィードバックで相談事がないか尋ね、必要に応じて家族支援を行っている。要望等についてはミーティングで全職員に共有している。	・支援後のフィードバックだけでなく、家族支援等を活用して家族の悩み等に対応できる体制を整える。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	ブログ・インスタグラムを定期的に更新している。連絡体制としてLINEを用いている。	・定期的なブログやインスタグラムの更新、連絡ツールとしてのLINEの活用を継続する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報には鍵付き書庫で管理し、廃棄する場合にはシュレッダーにかけている。	・個人情報の漏えい・紛失等がないよう、取り扱いには今後も細心の注意を払う。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	利用児・保護者に分かりやすい説明を心がけ、使用教具等は提示しながら意思疎通を図っている。	・LINEも活用しながら、情報伝達に齟齬が生じないよう配慮する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	現状の機会提供なし	・今後、要望があれば検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルを作成し、それに基づいた訓練を実施している。保護者には訓練等を実施している旨、契約時に説明している。	・契約時の説明を継続する。 ・SNS等に訓練の活動報告を掲載することで、活動の様子についても保護者に周知する体制を整える。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	マニュアルを作成し、規定通りに訓練を実施している。	・マニュアルに基づいた定期的な訓練実施を継続する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	新規面談・契約時に確認している。継続利用者については、新年度を迎えるごとに確認している。	・新規面談時や新年度のタイミングでの服薬状況の確認を今後も徹底して行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事提供は行っていないが、小麦粘土の使用を見据えて確認を行なっている。	・新規面談時や新年度のタイミングでのアレルギーの確認を今後も徹底して行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	毎年、安全計画を作成している。日々の支援でも安全面に留意しながら活動提供している。	・安全計画に基づく支援提供を今後も継続する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	契約時に説明している。	・契約時の説明を今後も継続する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事例が発生したら、報告書の作成を行い職員・ユニット間で情報共有を行っている。	・ヒヤリハット発生時の情報共有や報告書作成を今後も徹底して取り組む。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	適切な頻度で実施している。	・適切な頻度での研修を今後も継続して実施する。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	契約時に説明すると共に個別支援計画に記載している。研修等を通じて身体拘束を避ける関わりについて意見交換の場を設けている。	・研修を通じて全体で身体拘束についての共通理解をもった上で適切な対応がとれるよう、今後も配慮する。	